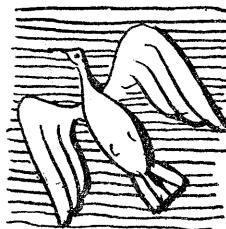


# 育 に お け る 話

## 童



## 上 沢 謙 二

ところで、人間は生きている以上、必ず何等かの経験をします。経験なしに生きるなどということはありません。だから、生きていくことが自然一種の社会化になるのです。それだけでは充分とはいません。殊に「教育としての社会化」となると、漫然と自然のままに放置しておくことは許されません。それでは教育になりません。殊に幼児は社会性が乏しいので、この方面が重大になつてくるわけです。保育の一つの中軸がそこにあるというのも、こういう理由からであります。

### ◆ 突き当るギャップ

社会化が経験によるならば、たびたびさまざまな経験をするということが必要で、教育としては、できるだけ経験を豊かにしてやることこれが考えられねばなりません。

「社会化」ということは、おたがい幼児教育にたずさわるもの、寸時も忘れてならないことはいうまでもありません。このためには、できるだけの研究、施設、考慮、工夫、努力がなされねばならないこと、これまたいふまでもありません。すなわち「社会化」は保育の一つの目標とも、目的ともいえましょう。毎日の保育は、これを一つの中軸として

### ◆ 教育としての社会化

「社会化」ということは、説明や、勧告や命令では、実現されません。つまり、いくら口をすっぱくして、くりかえしていくてもだめなのです。「社会化」は口で教えられるものではないのです。

それを実現させるものはただ一つ——経験。経験は、まず接觸する世界の広さによつて決定されます。接觸の広いものほど、より多く、より豊かに得られます。それから、注意力理解力の深さによつて決定されます。いくらくさんな事柄に接しても、自分の能力が

低いため、注意をひかず、理解ができないならば、接触しないと同じことで、何も得られません。

ところで、この点から観ると、最も頻繁に最も豊富な経験を与えるなければならない幼児は、最もそれができにくい状態にあることを発見するでしょう。

第一、幼児は接触する世界が甚だ狭いのです。大体わが家の内外、近所、幼稚園か保育所へ通つていれば、その環境が加わるといふくらいなところです。どこへでもどんどんゆけるほどの気力も体力も、まだそなわっていないからです。第二に、注意力も理解力も、甚だ弱く浅いのです。そういう心のはたらきが、まだ充分発達していないからです。

だから、いくら幼児にいろいろな経験をさせようとしても、どこへでも連れてゆくことはできませんし、いくらさまざまなものに接しさせても、自分の理解度に合わなければ受けつけません。強いてそうさせようとすれば疲れか飽きるかするだけで、かえって弊害を生ずることになるでしょう。

一方、できるだけ与えなければならないの

に、他方、ほんのわずかしか与えられない——これは、真剣に熱心に幼児教育を考えるものが、必ず突き当るギャップではないでしょうか。

そこで、こんなに想うでしょう。

「幼児の興味と理解に適するものばかりそろつて、幼児にふさわしい見聞と経験ばかり得られるものはないか」

これはいかにも虫のよい註文のように思われます。卒然とこういいだすと、一個の空想のようになります。されば、それがあるのです。そんなに詮索しなくとも、目の前にあるのです。すなわち童話がそれあります。

童話は、聴く者をどこへでも連れていきます。

たとえば、幼稚園で、親にはぐれた子猿が「お母さん、お母さん」と呼びながら、夕暮の山路をさまよいあらぐ童話をすると、聴いている園児たちは、日当りのよい明るい保育室にいることを忘れて、薄暗い山の中にいる

ように感じます。単に感するという以上に、その場の光景が、目の前にあらわれてくるほどの現実味が醸しだされるのです。そのように、森の中へでも、海のほとりへでも——子供がけつしていつたこともない、またゆくこともできないところへ連れてていきます。

しかも、忽然として連れていきます。今が今まで別なことを考えて、別なことをしている幼児が、「お話」といわれて、いざまいをおなして、その方に注意と興味をむけるとともに、もう彼等は山の中、海のほとりへ連れられていってしまうのです。

それはかりではありません。聴いているうちに、園児たちの心は子猿の心にひきつけられます。子猿が悲しむと悲しくなるし、喜ぶとうれしくなります。つまり、猿の悲しみ喜びが、われの悲しみ喜びになります。單にそういう感情だけではありません。利害も一致します。子猿に利益を与えるものには、園児たちも感謝の心をおこし、子猿に害を及ぼすものには、園児たちも憤慨します。更に善悪正邪の判断も同じになります。子猿が善とするとこには、園児たちも憤慨します。

一方、できるだけ与えなければならないの

が悪とするところは、園児たちも悪として憎みます。すなわち子猿の精神は園児たちの精神に乗り移ってしまうのです。子猿と園児は精神的に同化してしまうのです。こうなるともう彼と我的区別はなくなつて、彼は我になり、我は彼になつてしまふのです。

#### ◆現実的な経験を与える

人物事件を再現して共鳴感を喚ぶものは童話のほかにもあります。画や写真がそれですが、再現の方法がちがいます。絵や写真是固定的平面的なことを免れません。しかし、童話は画や写真のように形に制限されないので、それだけ自由自在です。童話の世界では川の中の光景は直に山の上の場面に移るし、遠く隔たつて思い合う母と子は、離れているままに同時にあらわされます。そればかりでなく、肉眼ではとても見えないその時々の気持のうごき、心のはたらきまで、はつきりと写しだされます。ただ写しだされるばかりでなく、その動きが刻々に動くままに、そのはたらきが次第々々に移るままで、あらわされます。これほど活動的に、立体的に、人物事

件を再現するものは、おそらくありますまい。

だから、童話に聴き入つて、話中の人物に同化したものは、話中の人物が経験したのと同じような経験を、自分の経験として経験するのです。唇を動かしてそれと同じ言葉をいつたり、手足をうごかしてそれと同じ行動をしたりしませんが、心中では、知情意の全部をはたらかせて、全心全靈を傾けて経験するのです。

おそらくこれほど実際に近い経験はないで

しょう。経験といえば、実際その場に臨んでそういう自己に遇うことですが、自分の心と身体はまるで別なところにいて、別なところで行われた経験に近いものを、心で経験させるのが、童話であります。前述の例をひけば、自分の心と身体は幼稚園の保育室にありながら、山の中の子猿の経験に近い経験をさせるのが、童話であります。

#### ◆心理的選択論理的排列

あの東西もわからない頃はない幼児に対しても、童話はどうしてそんなにえらい作用をす

るのでしょうか。

複雑きわまりない社会人生は、はるかに児の興味と理解を超えていくのですが、童話はその社会人生の中から、児の興味と親しみの深いものを選びだし、児の理解と感銘にふさわしいように排列したものであります。しかも、その選択も排列も、あちこちこちから寄せあつめて、勝手に組みあわせた寄木細工ではありません。心理的な観点に立ち、本筋工ではありません。心理的な法則にしたがつて排列されたものであります。

だから、童話の世界では、児が行き遇うもので、無関心無理解に過ぎざれるものは一つもありません。わけのわからないものにぶつかって迷うこともなければ、むずかしいことをおぼえさせられることもありません。すべてが心をひき、わが理解に訴えるものばかりです。だから、興味はいやが上に湧き、感銘はしみこむように透り、印象は奥深く刻みつけられるのであります。

といって、作者は童話を創作する際においては、一々の材料に対して心理学的な尺度を当てはめるわけでもなく、それぞれの構成に

対して論理的な検討を加えるわけでもないのですが、作者が心から子供を愛し、鋭どい芸術性をもつていれば、創作の際に、おのずからそういうはたらきがはたらきだすのであります。何となれば、子供を愛する心は児童心理的にならざるを得ないし、鋭どい芸術性は作品にきびしい必然性を与えなければやまないからであります。だから出来上がった童話作品は、窮屈までも自然の趣をそなえて、所謂天衣無縫ともいべき姿をもつてゐるのであります。

### ◆経験的に広く豊かに

そういう童話が、どのようにして児児に与えられるかといえば、人物の活動も、事件の発展も、あるがままに、できるだけ自然に話されるのです。童話自身が豊かな自然性をそなえている上に、それを与えるのに、いさかも人為的な無理を加えないのですから、それを聴く児児がきわめて自然に触れるることは当然であります。教えられるとも、導かれるとも思いません。況んや、課せられる、強いられるなどとは毛頭考へません。恰も世の中

の実際の事件に、自然に触れるような心境で触れるのです。われ知らざる間に感じ化せらるので、まったく自然経験的であります。

だから、児児は現実にその事件には接觸しないのですが、接觸したと同じように、また同じくらいに、経験的に広くされ、深くされた獨特の作用といえましょう。

### ◆迂闊者不埒者不届者

社会化を重要な目的とする保育において、できるだけ広い範囲のさまざまな経験を与えることを旨とする保育において、しかもそれを児児の興味度と理解度に即してなされねばならない保育において——童話というものが、あることは、保育する者に取つては、何とう有難いことであり、保育される者に取つては、何といふ幸福なことでしょう。

したがつて、それを充分に利用しない、熱心に活用しない保育者があつたとしたら、天との恩物を拒否する迂闊者、怠慢者、或は不埒者、不届者といわれても仕方がないでしよう。

## ☆児童教育界における 倉橋惣三先生の二著

### 幼稚園真諦

B六判二三四頁定価二六〇円  
子供讀歌

倉橋惣三先生が、永年に亘り考究された児児保育の真のあり方を、体験によるうらづけと、先生の美しい心のままに、平明に描かれた書で、児児教育にたずさわる先生方が、必ず一度はお読みになつて、ほんとうの意味の幼稚園の理解と、倉橋先生のりっぱな児童觀を、会得していただきたいと思ひます。